

歴史と街づくり活動の経緯

1. 概要

当地（飛島グリーンヒル）は、びわこ文化公園都市の居住区画としてデベロッパー（飛島建設）の分譲開発にて1980年前後から形成されつつある環境良好な滋賀県最大規模のニュータウンであったが、バブル崩壊後、事業会社飛島建設の業績不振により、約10年間分譲が中断され、2000年から分譲が再開され、現在も継続して住宅地の販売が行われている。

当地は、近年発展著しい滋賀県南部に位置し、大津市青山地区および松ヶ丘地区や、隣接し一体として街区を形成する草津市若草地区の3地区から構成される大規模ニュータウン「飛島グリーンヒル」として、県内有数の大規模住宅地としての評価を得るに至っている。

その中では、各丁単位に自治会が順次結成され、2006年には人口の増加によって、単独学区として独立し、その受け皿となる「青山学区自治会連合会」が結成され、日常の住環境の維持など良好なまちなみの形成に取り組んでいる。この学区独立を契機に、地域待望の市民センターも完成し、街の中核となる商業施設誘致が完成稼働している。

今後、より一層地域住民自身によって住環境の維持管理をしていくことが特に重要な状態となって来ている。地域住民や各種団体等を中心に良好なまちなみを維持形成していくことに対する関心が高まって来っており、各所で盛り上がりの機運が生じている。そして、2007年にこれらをサポートする為の包括的な地域ボランティア活動を行うチームがNPO法人化するに至り、積極的な街づくり・町並み維持活動を展開している。

2. まちづくりの経緯

当地域の良好な都市計画を維持する為に1991年3月に地区計画が決定され、引き続き1992年に良好な住宅地としての環境をより高度に維持増進するため、滋賀県第1号の建築・緑化協定が締結された。当時、好景気に乗り、当エリアの住宅販売状況も好調であり、順調なまちづくりが進むものと思われたが、分譲事業会社のバブル崩壊に伴う急激な経営不振により、分譲が10年間の長期に亘り中断され、まちづくりに対する積極的な支援体制の構築が出来ない状況に至った。加えて生活の中核となる商業施設（西友スーパー）の撤退等により、より停滞色が強まった。

その状況において、住民たちのまちづくりを維持し続けようという自発的な意欲により、

地区計画、建築緑化協定、各種ボランティア活動は連面と自発的に継続され、分譲が再開された2000年からは、若い世代の住民たちも積極的に参加し、地域としての自発的なまちづくり活動を支えてきている。

但し、分譲を再開したといっても事業会社は主体的な関与が出来る状態ではなく、ここ数年は、自治会、各種ボランティア団体の積極的且つ主体的な関与により、まちづくり活動を継続している。

この中に、地域の里山保全を積極的に行うボランティア団体（「牟礼山森林クラブ」）や、地域美化清掃を10数年来行っている「ボランティア青山」等がある。そして、この各種任意団体をより積極的に支援し、滋賀県内最大規模となった地域住民が主催するお祭り「青山夏祭り（過去18回開催）」の暦年支援等を目的として、『NPO法人青山まちづくりネットワーク』（2007年2月）を設立した。

このNPO法人は地域のまちづくりの活動主体として、また、自治会の枠組みを越えた地域全体として長期的視野で取り組む必要がある「自然保護」・「次世代育成」・「高齢者支援」・「防犯/防災」等の諸課題を解決し、同様の趣旨を持つ自発的なボランティア団体等を横断的に企画・調整を行い、継続的に本地域のまちなみ形成を推進する中核的な組織と位置づけられ、地域住民の間における存在感が高まっている。

構成するメンバーは、各種ボランティア団体の中核メンバーをはじめ、自治会役員経験者、PTA役員経験者等、地域のまちづくりに積極的に関与する必要性を体感した者達である。

具体的に展開してきた実施活動としては、下記の3点があげられる。

1) 建築緑化協定の遵守活動

景観形成の維持管理活動としては、建築緑化協定を維持するための建築緑化協定委員会が各自治会に設けられており、積極的な活動を展開している。住宅建設や改築、庭園のリフォームに伴い、建築・緑化計画を事前に提出し、事前協議を同委員会で行った上、了解を得た後に着工する流れが住民の意識としても定着しており、同委員会の定期的な協定遵守状況の見回り活動を実施している。その是正勧告に対しても概ねの住宅が素直に従う地域土壌が育成されている。

2) 地域住民による一斉清掃

この地域の景観維持活動の最大の特徴として、年間4回の全住民による一斉清掃（年間4回）を行っている。出席率は全世帯の98%以上となっている。実施の背景としては、当地域が巨大なニュータウンであり、広大な緑化面積を有するため、行政サービスによる緑化整備では全く不十分である現状を住民自身が熟知しており、その結果自発的に

同活動を実施するに至っている。また、この際に一般住民では手間のかかる重作業や高所高木の伐採等は、前出の地域ボランティア団体が支援して行っている。勿論この定期的な一斉清掃以外にも NPO ボランティアメンバーによる月例活動（月4回以上）も実施されている。

3) 地域振興イベントによる住民のまちづくり意識の啓発

上記の活動は長期間継続している緑化活動であり、その結果として、当 NPO は地域運営に関して行政から厚い信頼を得ている。今年度には、当 NPO で常日頃清掃管理を行っている町の中心幹線である中央通りに面する緑地帯（総面積で約 3800 坪）の特例的且つ継続的な占有許可を受けることになった。その結果、同緑地において本年から地域振興イベントとしての地域住民参加による「青山市民マーケット」を開催することが出来た。50 店に上る出店者と数千名に亘る来場者があり、大変好評を得た。

これは、ニュータウンの宿命である一斉の高齢化による地域活力の衰退や閉塞感を打破するために、地域資源としての美しい町並みを利用した新しい視点からの地域活性化事業であり、若年層が住みたいと思える美しい活気ある町並みを目指した大変有効な取り組みと考えている。

また、本年はこの美しい町並みを彩るべく、例年の「青山夏祭り」の際に、街路を広範囲に亘り、昨年を上回る規模の「竹灯籠ライトアップ」を展開した。さらに地域環境に配慮し、地域住民から回収した食用廃油を以って製作した数千本のエコろうそくを使用した。尚、今年度は立命館大学（びわこキャンパス）のボランティアセンターと協働し、大学生のボランティアメンバーも十数名参加し、製作段階から夏祭り本番の実施に至るまで、老若男女を問わず幅広い参加協力者を得ることができ、地域環境の維持に関しての有効な啓発活動となった。立命館大学は当地域と里山を挟んで隣接する同じ地域環境を保全する立場にあり、地域奉仕活動を学生に課題として与えており、今年度より単位認定が成される正規授業の一環としての「地域ボランティア講座」が開講されており、その1講座の講師を当 NPO で務めている。